

## ブドウ '安芸クイーン' の適正着果量

佐藤 孝宣・堀 恵美・奥山 仁六\*

(山形県立園芸試験場・\*山形県農政課)

Optimum Fruit Bearing of Grape 'Aki Queen'

Takanobu SATO, Emi HORI and Niroku OKUYAMA\*

(Yamagata Prefectural Horticultural Experiment Station・\*Agriculture Administration Division Yamagata Prefectural Government Office)

### 1 はじめに

山形県内におけるブドウの品種構成は 'デラウェア' が主体で全体の70%以上を占めている。しかし、消費者の嗜好は大粒で味の良い高級ブドウへ移行しており、大粒系品種の導入にも積極的に取り組んでいく必要がある。

'安芸クイーン' は果樹試験場安芸津支場において、'巨峰' の自家受粉により育成された赤色大粒の新品種である。山形県立園芸試験場では、昭和61年(1986年)から系統適応性検定試験を実施しており、その結果、平成3年(1991年)に県の有望品種に取り上げられ、普及拡大を図っている。

そこで、'安芸クイーン' の適正着果量、生産力について検討したので報告する。

### 2 試験方法

場内植栽のテレキ5BB台 '安芸クイーン' 8年生2樹を供試した。着粒基準は主枝単位に葉1枚に対し0.5, 0.75, 1.0, 1.5粒の4区とし、満開25日後に葉数を調査し、所定の着粒基準に調整した。なお、1房当りの粒数は20粒に統一した。

果粒の着色進度は各区10果房について、着色始期から収穫期まで経時的に着色の開始した果粒の割合を調査した。果実品質は収穫時(9月17日)に各区10果房を供試し、着色、裂果粒率、1粒重、屈折計示度、滴定酸度について調査した。着色は5:濃鮮紅色, 4:鮮紅色, 3:淡鮮紅色,

2:淡紅色, 1:黄緑色の指数で表示した。

新梢長、新梢の登熟率は全新梢について10月16日に測定した。葉面積指数は新梢の葉面積(新梢長xと葉面積yの回帰式  $y = 22.24x - 3.25$   $r = 0.990$  \*\* から求めた。)と樹冠面積を測定し、葉面積指数を調査した。10a当たりの収量は樹冠面積、各試験区の収量から換算した。

### 3 試験結果及び考察

着色の進度は図1のとおり着果量が少ない区ほど早く、0.75以下の着粒基準では着色開始後1週間で半数以上の果粒が着色した。逆に、1.0以下の着粒基準では着色の進みぐあいが遅く、収穫期になっても淡紅色にとどまる果粒が

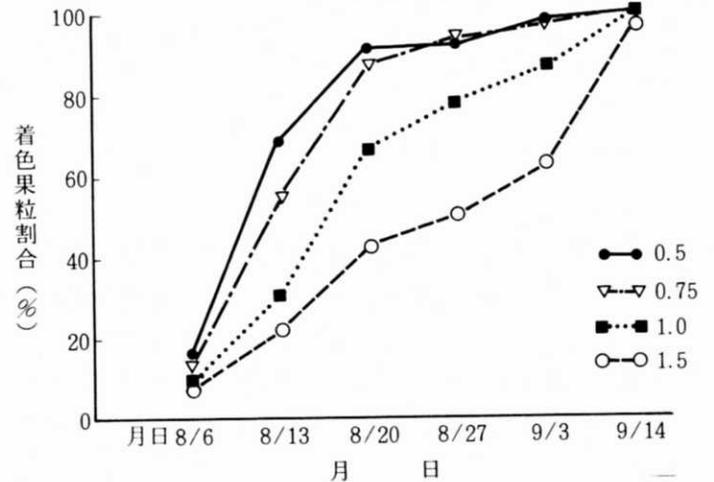


図1 着果量と着色進度 (1992年)

表1 着果量と果実品質

(1992年)

試験区	着色指数	果房重 (g)	着粒数 (個)	1粒重 (g)	屈折計示度 (BX°)	滴定酸度 (%)	裂果粒率 (%)
0.5	①	295	20.4	14.0	19.5	0.28	0
	②	248	17.9	13.7	19.2	0.30	0
	平均	272	19.2	13.9	19.4	0.29	0
0.75	①	302	20.9	14.2	19.4	0.29	0
	②	240	16.8	13.9	19.0	0.33	0
	平均	271	18.9	14.1	19.2	0.31	0
1.0	①	304	21.2	14.1	17.8	0.34	0.5
	②	193	13.3	14.1	18.4	0.30	1.5
	平均	248	17.3	14.1	18.1	0.32	1.0
1.5	①	305	19.9	15.1	16.9	0.41	0.5
	②	285	21.5	12.8	17.4	0.35	1.4
	平均	295	20.7	14.0	17.2	0.38	1.0

混入した。

果実品質では着色、屈折計示度とも着果量の少ない区ほど良好であり、0.75以下の着粒基準で商品価値の高い果房が得られたが、1.0以上の区では収穫時期をすぎても着色不良の果房が混入した。滴定酸度は着果量が多い区ほど高い傾向であったが、1粒重、裂果率は処理区間に差がみられなかった(表1)。

新梢の生育では平均新梢長は0.5区と1.0区が他の区に比較してやや長かったが、登熟率は処理区間に差はみられず、翌年の結果母枝として充分確保できると考えられた。

10a当たり換算収量は葉面積指数1.2~1.6の範囲内で0.5区が640kg、0.75区が1,140kg、1.0区が1,600kgと着果量が多い区ほど高かった(表2)。

表2 新梢の生育と葉面積指数、収量

(1992年)

試験区	平均新梢長 (cm)	平均登熟長 (cm)	平均登熟率 (%)	葉面積指数	10a当たり換算収量 (kg)	
0.5	①	83.6	50.6	60.5	1.53	677
	②	62.0	33.3	53.7	1.23	604
	平均	72.8	42.0	57.1	1.38	641
0.75	①	51.7	26.8	51.8	1.44	1,161
	②	63.6	35.6	56.0	1.45	1,124
	平均	57.7	31.2	53.9	1.45	1,143
1.0	①	61.5	34.3	55.8	1.87	1,923
	②	74.4	43.4	58.3	1.24	1,317
	平均	68.0	38.9	57.1	1.56	1,620
1.5	①	62.5	34.5	55.2	1.35	2,478
	②	55.2	27.9	50.5	1.17	1,547
	平均	58.9	31.2	52.9	1.26	2,013

#### 4 ま と め

ブドウ「安芸クイーン」の適正着果量は、葉面積指数1.5前後の場合、葉1枚当たり0.75粒前後が適正と考えられる。この場合の10a当たりの収量は約1,100kgであった。